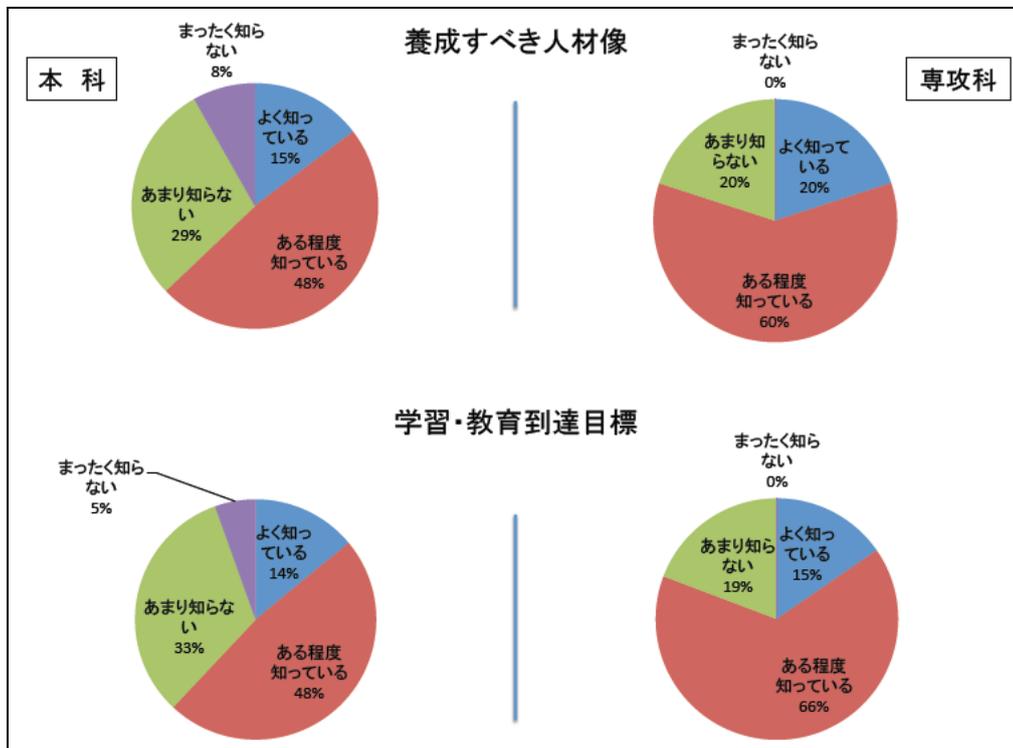
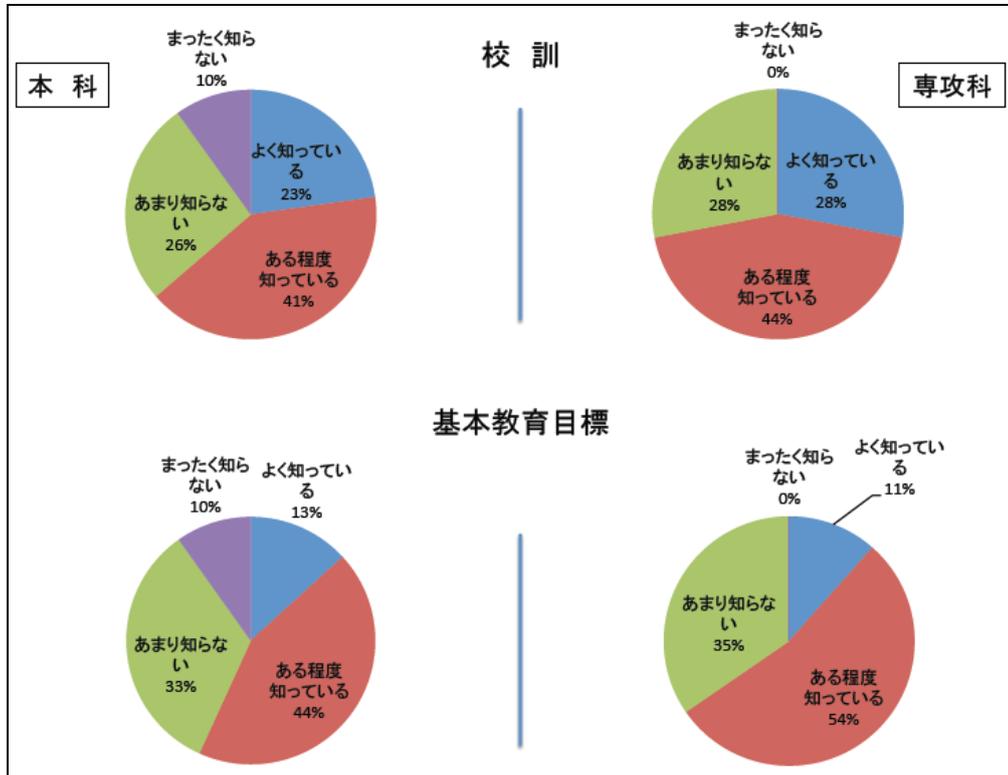


資料 6 - 1 - ① - 8 続き

教育目標等の把握状況調査
アンケート結果 (抜粋)



(出典：FD 委員会資料)

資料 6 - 1 - ① - 9

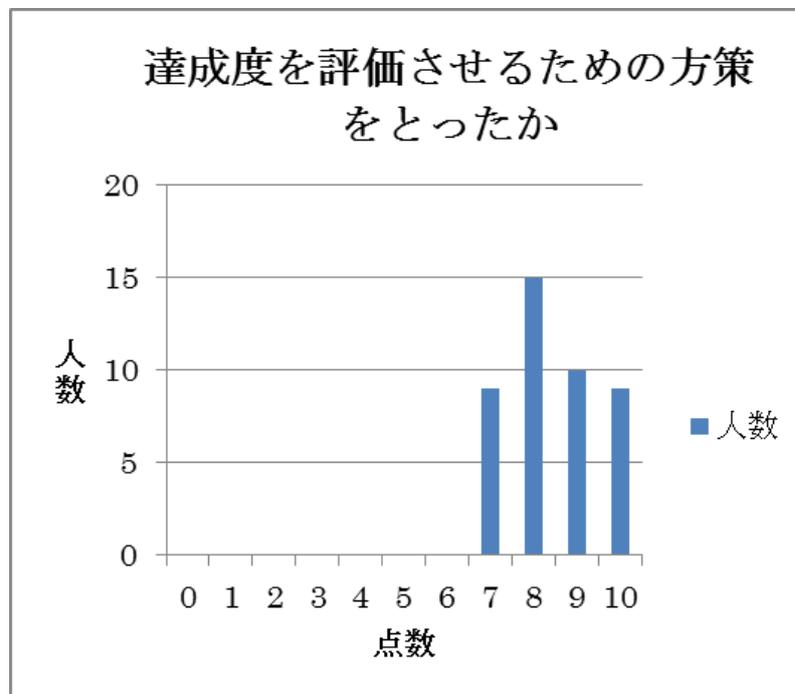
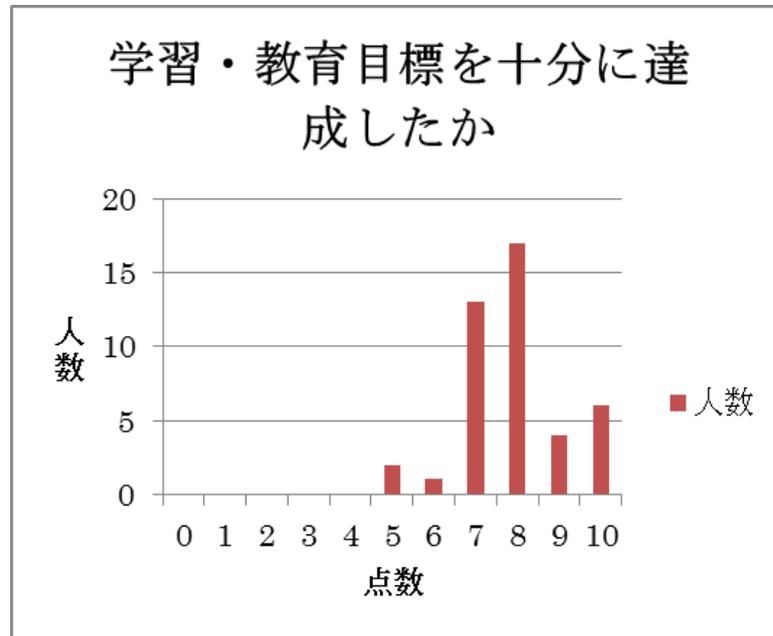
目標達成状況を把握・評価するための取組み

アンケート用紙

| 平成24年度教員教育評価票 | | |
|--|------------|------|
| 学科名: | | 教員名: |
| 自己評価年月日: | 平成 25年 月 日 | |
| 評価項目と採点基準(下記基準を目安に10点満点で自己評価欄に記入) | 自己評価 | 要改善 |
| 1. 全体的にシラバス通りの内容で授業を実施したか。 不十分=0点 大体十分=5点 完全に実施=10点 | | |
| 2. 自学自習の指導を行ったか。 不十分=0点 大体十分=5点 完全に実施=10点 | | |
| 3. 授業の教材, 準備, 進め方等について反省点があるか。 かなりある=0点 若干ある=5点 ほとんどない=10点 | | |
| 4. オフィスアワーやその他の時間に学生の来室があったか。 全く来室がない=0点 毎月来室があった=5点 毎週来室があった=10点 | | |
| 5. 試験やレポート等の内容のレベルは妥当だったか。 出題範囲・内容・レベルに問題がある=0点 シラバスに即しておりほぼ妥当=5点 シラバスに即しており十分妥当=10点 | | |
| 6. 学習・教育目標を十分達成したか。 不十分=0点 大体十分=5点 完全に実施=10点 | | |
| 7. 学生自身に達成度を評価させるための方策をとったか。(試験・レポート) 答案等返却なしの成績表示のみ=0点 答案等返却なしの正解掲示=4点 答案等の返却のみ=6点 答案等の添削返却=8点 答案等の添削返却に加えて解説や個別指導も行った=10点 | | |
| 8. 目標未達成の学生に対して何らかの指導を行ったか。 指導しなかった=0点 少し指導を行った=5点 指導を十分行った=10点 | | |
| 合計点(目標 48点以上/80点満点) | 0 | |
| * 自己評価欄には、0～10点までの任意の点数を記載すること。 | | |
| * 要改善の欄には、次の通り記載のこと。 改善が必要な場合:「レ」を記載 改善が不要な場合:記載なし | | |
| 改善計画(要改善の項目について記載) | | |

資料6-1-①-9 続き

目標達成状況を把握・評価するための取組み
アンケート結果



(出典：FD委員会資料)

P D C A 連絡会議 議事録

日時：平成 22 年 11 月 2 日（火） 16:00 - 於 小会議室

出席者：柳本教務主事，宮崎専攻科長，竹村教育点検評価委員長，窪田教育改善委員長，増山教務主事補

欠席者：橋本学生課長

書記：増山

議事

1. 授業アンケートについて

1-1 窪田教育改善委員長からの報告

- ・平成 22 年度前期分のデータ集計が終了した。
- ・平成 22 年度学年末分は，学生の満足度を定量評価する項目を追加する予定。
- ・平成 23 年度以降は山形大学で実施している授業評価システムを採用する予定。
上記システムはアンケート設問が良く工夫されていると評価している。

1-2 討論

- ・自由記述式と選択肢式とどちらが良いか？
自由記述式だと，意見の内容が感情的でないか，よく吟味する必要がある。
- ・アンケート結果の公開は？
来年度実施予定のシステムでは，結果をまとめた冊子ができあがる。
部数は未定だが，これを図書館に置くのも一案。
選択授業方式の大学と違い，学生に公開してもその効果は未知数。

2. 教員相互の授業参観について

2-1 窪田教育改善委員長からの報告

- ・平成 22 年度のスケジュールが決まった。

2-2 討論

- ・他学科の参観を推奨しないのか。
今年は e-learning 実施授業の参観を奨めたい。
- ・専攻科の講義が参観対象になっていないのはなぜか。
偶然であり，次回以降専攻科の講義を入れるようにする。
- ・来年度のスケジュールはどうするか？
6 月頃実施も一案である。

3. 研究ノートについて

3-1 宮崎専攻科長からの発議

- ・研究ノートの書式について，どう評価しているか？

3-2 討論

- ・来年度の分については予算面も含めて，事務手続き交渉中である。
- ・ノートの取り方は分野によって異なるので，全校統一書式は無理がある。

- ・日本語文章力を付ける目的なら，一般の大学ノートでもかまわない。

4. 学修の記録について

- ・「学修の記録」について過年度の様式が記録されていて，改善の履歴が分かるようになっているか？

事務で過去の様式も保存している。

- ・学修の記録を付けることが周知されていない。
普段学生自身が持っていないことが問題。
一年生から学種の記録をつけさせる方が教育効果が高い。
扱いやすいフォーマットを検討する必要がある。

5. 保存資料について

5 - 1 竹村教育点検評価委員長からの報告

- ・平成 20，21 年度分の保存資料について，存在の点検を進めている。
- ・進捗度シートが保存されていないケースが多い。特に web 入力できない非常勤の科目について顕著。
- ・教員と事務の間で，保存資料の授受簿を作製することが必要。
- ・追認や特別指導の資料保存状況がよくない。

5 - 2 討論

- ・資料保存方法のルール周知を，定期的に行うのがよい。
- ・答案返却を各教員に徹底するべきである。
- ・入学試験のように「評価のための試験」と解釈すれば，答案返却しなくても良いのでは。

6. 教務委員会の取り組み状況について

6 - 1 柳本教務主事からの報告

- ・別紙資料の通り活動している。

6 - 2 討論

- ・保存資料の D.I.Y. は理想だが，他者によるチェックが必要。
- ・学年末の P D C A 連絡会議は，該当各委員会の合同委員会とするのがよい。
- ・年度当初および前期末の連絡会議は，各委員長による少人数の会議でよい。

以上

(出典：FD 委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程・専攻科課程のカリキュラムにおけるそれぞれの科目の位置づけにより、科目毎に学習・教育目標との対応を定めており、担当教員による科目毎の成績評価から進級・卒業及び修了判定まで、いずれも明記された評価方法と基準及び規定に基づいて厳密に実施されている。またFD委員会が実施するアンケートにより取り組みが適正に行われていることがわかる。

以上により、高等専門学校としてその目的に沿った形で、課程に応じて学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力や養成する人材像について、その達成状況を適切に把握・評価するための組織体制がおかれ適切な取組がなされている。

観点 6-1-②： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、学校としてその達成状況を評価した結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点到に係る状況)

平成20年度から5年間の準学士課程各学年の単位修得率は学年平均で96.3%~100%の高い値となっており、進級率は平均で99.1%~92.1%である。また卒業率（編入学生を除いた卒業生数/当該卒業生の入学時学生数）は86.3~93.3%で推移しており、総卒業率（卒業生数/当該卒業生の入学時学生数）は88.2~94.5%となっている。進学率は30.8~36.5%で推移している（資料6-1-②-1）。このように準学士課程5年間の教育課程において高い進級率と卒業率が明らかであることから、基本教育目標1)~4)が達成されている。本校では資格取得を奨励し、実用英検や工業英検、TOEIC、甲種危険物取扱者については進級及び卒業に必要な累積単位として認めている（資料6-1-②-2~3）。専攻科課程における単位修得率も96.5~99.4%と高い値である（資料6-1-②-1）。卒業研究及び専攻科研究については、項目毎に評価方法を明確に定めており、厳密に評価を行うことによって、適正な水準を達成した学生のみを合格としている（資料6-1-①-3参照）。本校の卒業研究や専攻科研究を通じて得られた研究成果のうち、平成24年度で学生自身が学会・研究会等で発表した研究報告は準学士課程で32件、専攻科課程で33件あり、その中で国際会議での発表が8件であったことから学生の身に付ける資質や能力が向上している（資料5-7-①-3参照）。また学修の達成状況が優れた学生に対しては学会賞等が授与されている（資料6-1-②-4）。

資料6-1-②-1

単位修得率, 進級率, 卒業・総卒業率
(準学士課程)

準学士課程における過去5年間の単位修得率, 進級率, 卒業率・総卒業率及び進学率

単位修得率 進級判定資料の修得単位平均/修得可能単位数

| 学年 | 年度 | | | | | |
|----|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 平均 |
| 1 | 99.9% | 99.9% | 99.9% | 99.7% | 100.0% | 99.8% |
| 2 | 99.9% | 99.7% | 99.6% | 99.3% | 99.3% | 99.6% |
| 3 | 99.0% | 98.4% | 99.0% | 99.0% | 99.4% | 99.2% |
| 4 | 97.4% | 97.0% | 95.7% | 96.3% | 96.7% | 97.3% |
| 5 | 99.3% | 97.6% | 98.7% | 98.2% | 98.4% | 99.0% |

進級率

| 学年 | 年度 | | | | | |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 平均 |
| 1 | 99.4% | 98.1% | 99.4% | 99.4% | 99.4% | 99.1% |
| 2 | 97.6% | 96.3% | 97.5% | 98.8% | 99.4% | 97.9% |
| 3 | 93.9% | 93.2% | 95.7% | 96.3% | 98.8% | 95.5% |
| 4 | 93.9% | 89.4% | 92.5% | 90.6% | 90.6% | 91.4% |

卒業・総卒業率

| 卒業年度 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 卒業率 | 93.3% | 88.2% | 91.9% | 90.0% | 90.6% |
| 総卒業率 | 94.5% | 88.2% | 93.2% | 91.9% | 90.6% |

進学率

| 卒業年度 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 進学率 | 34.7% | 36.5% | 36.1% | 30.8% | 36.3% |

進学者数÷卒業生数(それぞれの数字は学生便覧から)

資料 6-1-②-1 続き

(専攻科課程)

| 単位修得率 | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 学年 | 年度 | | | | | |
| | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 平均 |
| 1 | 97.9% | 95.5% | 95.9% | 97.4% | 97.8% | 96.8% |
| 2 | 99.4% | 99.5% | 95.6% | 98.6% | 99.3% | 98.4% |

(出典：学生課資料)

資料 6-1-②-2

鶴岡工業高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する実施要項

校長 裁定

制定 平成 6 年 12 月 16 日

最終改正 平成 24 年 4 月 1 日

- 鶴岡工業高等専門学校以外の教育施設等における学修等に関する規程（以下「規程」という）第 6 条により、規程第 1 条の工場実習における学修及び規程第 2 条第 1 号から第 5 号に掲げる学修の取り扱いを定めることを目的とする。
- 単位を認定できる学修等について、次のとおり定める。

| 単位を認定できる学修 | 名 称 | 科 目 名 | 備 考 |
|----------------|---|-----------|---------------------------|
| 文部科学大臣が別に定める学修 | 実用英語技能検定試験 (以下「実用英検」という。) | 実用英検〇級 | 校外学修 (一般科目)として 取り扱う |
| | 国際コミュニケーション英語 能力テスト(以下「TOEIC」 (IPテストを含む)という。) | T O E I C | |
| | 工業英語能力検定試験 (以下「工業英検」という。) | 工業英検〇級 | 校外学修 (専門科目)として 取り扱う |
| | 甲種危険物取扱者試験 | 甲種危険物取扱者 | |
| 工場実習における学修 | 工 場 実 習 | 工 場 実 習 | |

- 2 で定める実用英検、TOEIC、工業英検、甲種危険物取扱者並びに工場実習の、規程第 5 条第 1 項に定める累積修得単位数は、次のとおり定める。

| 科 目 名 | | (1). 規程第 4 条第 2 項第 3 号で認定可能な修得単位数 | 科 目 名 | | (1). 規程第 4 条第 2 項第 3 号で認定可能な修得単位数 |
|-----------|-----------|-----------------------------------|----------|-------|-----------------------------------|
| 実用英検 | 準 2 級 | 1 単 位 | 工業英検 | 3 級 | 1 単 位 |
| | 2 級 | 2 単 位 | | 2 級 | 4 単 位 |
| | 準 1 級 | 4 単 位 | | 1 級 | 6 単 位 |
| | 1 級 | 6 単 位 | 甲種危険物取扱者 | 2 単 位 | |
| T O E I C | 400点～495点 | 1 単 位 | 工場実習 | | 1 単 位 |
| | 500点～695点 | 2 単 位 | | | |
| | 700点～895点 | 4 単 位 | | | |
| | 900点～990点 | 6 単 位 | | | |

- (2) 実用英検、TOEIC、工業英検の複数の級等に同時に合格し、(1)に定める単位の認定を同時に申請した場合は、上位の級に対応する単位を認定する。ただし、実用英検及びTOEICの複数の級等に同時に合格し、(1)に定める単位の認定を同時に申請した場合は、いずれか一方の上位の級等に対応する単位を認定する。
- (3) 実用英検、工業英検に合格し、(1)に定める単位の認定の申請があった場合、又はTOEICの獲得点数において、すでに認定された単位がある場合は、既に認定された単位数を差し引いた単位のみを認定する。
- 4 3の(1)に定める累積単位の認定の申請は、第1学年から当該学年までの分を第4学年時及び第5学年時に行うものとする。
- 5 規程第4条第2項第1号から第3号により認定された単位は、次のとおり評価する。
- (1) 規程第4条第2項第1号及び第2号に定める学修は、100点法で評価する。
- (2) 規程第4条第2項第3号に定める学修は、「合格」で評価する。

備 考

この要項は、平成19年4月1日から実施する。

備 考

この要項は、平成22年4月1日から実施する。

備 考

この要項は、平成24年4月1日から実施する。

平成24年度鶴岡工業高等専門学校以外の教育施設等における学修単位認定並びに
進級の認定に必要な累積単位認定申請者一覧 (TOEIC・英語検定)

| | | | | |
|------|---------------|--|---------|-----------------|
| 第4学年 | 機 械 工 学 科 | | TOEIC | 415点 (一般科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | 〃 | 745点 (一般科目・4単位) |
| 〃 | 〃 | | 〃 | 530点 (一般科目・2単位) |
| 〃 | 〃 | | 〃 | 400点 (一般科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | 〃 | 910点 (一般科目・6単位) |
| 〃 | 〃 | | 実用英検準2級 | (一般科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | TOEIC | 510点 (一般科目・2単位) |
| 〃 | 〃 | | 実用英検準2級 | (一般科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | 〃 | 準2級 (一般科目・1単位) |
| 〃 | 電 気 電 子 工 学 科 | | TOEIC | 590点 (一般科目・2単位) |
| 〃 | 制 御 情 報 工 学 科 | | TOEIC | 555点 (一般科目・2単位) |
| 〃 | 〃 | | TOEIC | 410点 (一般科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | 〃 | 425点 (一般科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | 実用英検準2級 | (一般科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | TOEIC | 430点 (一般科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | TOEIC | 835点 (一般科目・4単位) |
| 〃 | 物 質 工 学 科 | | TOEIC | 820点 (一般科目・4単位) |
| 〃 | 〃 | | 工業英検 3級 | (専門科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | 〃 | 3級 (専門科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | TOEIC | 400点 (一般科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | TOEIC | 480点 (一般科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | 工業英検 3級 | (専門科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | 工業英検 3級 | (専門科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | TOEIC | 520点 (一般科目・2単位) |
| 〃 | 〃 | | 工業英検 3級 | (専門科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | TOEIC | 500点 (一般科目・2単位) |
| 〃 | 〃 | | 工業英検 3級 | (専門科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | 〃 | 3級 (専門科目・1単位) |
| 第5学年 | 機 械 工 学 科 | | TOEIC | 880点 (一般科目・4単位) |
| 〃 | 電 気 電 子 工 学 科 | | TOEIC | 400点 (一般科目・1単位) |
| 〃 | 〃 | | TOEIC | 535点 (一般科目・2単位) |
| 〃 | 〃 | | TOEIC | 960点 (一般科目・6単位) |

資料 6 - 1 - ② - 3 続き

| | | | | |
|--------|---------|---|-------|------------------|
| 第 5 学年 | 電気電子工学科 | ■ | TOEIC | 900点 (一般科目・6 単位) |
| 〃 | 制御情報工学科 | ■ | TOEIC | 475点 (一般科目・1 単位) |

平成 2 4 年度鶴岡工業高等専門学校以外の教育施設等における学修単位認定並びに
進級の認定に必要な累積単位認定申請者一覧 (甲種危険物取扱者)

| | | | | |
|--------|-------|---|-----|-------------|
| 第 4 学年 | 物質工学科 | ■ | 合 格 | (専門科目・2 単位) |
| 〃 | 〃 | ■ | 〃 | (専門科目・2 単位) |
| 〃 | 〃 | ■ | 〃 | (専門科目・2 単位) |
| 〃 | 〃 | ■ | 〃 | (専門科目・2 単位) |
| 第 5 学年 | 物質工学科 | ■ | 合 格 | (専門科目・2 単位) |
| 〃 | 〃 | ■ | 〃 | (専門科目・2 単位) |

(出典：学生課資料)

資料 6 - 1 - ② - 4

学生の学会等受賞者
(学生の氏名部分は黒塗り)

| 年度・学科・賞 | | 日本機械学会 晶山賞 | 日本化学会 東北支部長賞 | 電子情報通信学会 東北支部長賞 | 情報処理学会 東北支部 学生奨励賞 | 平川賞 |
|---------|---------|---------------|-----------------|--------------------|-------------------------|-----|
| 平成20年度 | 機械工学科 | | | | | |
| | 電気電子工学科 | | | | | |
| | 制御情報工学科 | | | | | |
| | 物質工学科 | | | | | |
| 平成21年度 | 機械工学科 | | | | | |
| | 電気電子工学科 | | | | | |
| | 制御情報工学科 | | | | | |
| | 物質工学科 | | | | | |
| 平成22年度 | 機械工学科 | | | | | |
| | 電気電子工学科 | | | | | |
| | 制御情報工学科 | | | | | |
| | 物質工学科 | | | | | |
| 平成23年度 | 機械工学科 | | | | | |
| | 電気電子工学科 | | | | | |
| | 制御情報工学科 | | | | | |
| | 物質工学科 | | | | | |
| 平成24年度 | 機械工学科 | | | | | |
| | 電気電子工学科 | | | | | |
| | 制御情報工学科 | | | | | |
| | 物質工学科 | | | | | |

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

単位修得率，進級率，卒業（修了）率の状況，資格取得状況，卒業研究及び専攻科研究等の内容・水準から判断して，教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

観点6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

平成22年度から平成24年度までの準学士課程卒業生及び専攻科課程修了生のほとんどが、就職あるいは進学している（資料6-1-③-1）。

準学士課程においては毎年60%以上の学生が就職している。24年度までの過去3年間の求人倍率の平均は7.1倍と高く、就職率は100%であることから、本校卒業生が社会から強く求められていることが分かる。また専攻科課程修了生については80~90%の学生が就職し就職率は100%である。卒業生・修了生の就職先は製造業、建設業、電気・ガス・水道業等の各業種となっている（資料6-1-③-2）。過去3年間で製造業に分類される企業へ就職した卒業生・修了生の割合は63.3%~67.9%を高く、また最近の産業構造の変化からIT産業を主体としたサービス業で活躍する技術者も多い。一方、準学士課程から専攻科・大学への進学率については高い割合を維持し、特に本校専攻科への進学者が多い（資料6-1-③-3）。進学先はほとんどが国立の工学・理学系となっている。専攻科から大学院への進学者も増加している。よって、基本教育目標は全て達成している。

資料6-1-③-1

進路状況一覧表

準学士課程

| | 卒業生総数 | 就職者数 | 進学者数 | その他・自営 | 求人倍率 |
|--------|-------|------|------|--------|------|
| 平成22年度 | 158 | 99 | 57 | 2 | 7.9 |
| 平成23年度 | 159 | 109 | 49 | 1 | 6.3 |
| 平成24年度 | 157 | 100 | 57 | 0 | 7.1 |

専攻科課程

| | 修了者数 | 就職者数 | 進学者数 | その他・自営 | 求人倍率 |
|--------|------|------|------|--------|------|
| 平成22年度 | 27 | 24 | 3 | 0 | 15.0 |
| 平成23年度 | 30 | 26 | 3 | 1 | 14.2 |
| 平成24年度 | 27 | 22 | 5 | 0 | 17.1 |

（出典：学生課資料）

資料6-1-③-2

卒業生・修了生の就職先業種別一覧

| 業 種 | | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 |
|----------------|---------|--------|--------|--------|
| 製 造 業 | 食料品 | 5 | 10 | 12 |
| | 繊維工業 | 6 | 2 | 3 |
| | 出版・印刷 | 0 | 0 | 1 |
| | 化学工業 | 22 | 23 | 18 |
| | 鉄鋼業 | 1 | 0 | 0 |
| | 金属製品 | 3 | 3 | 1 |
| | 一般機械器具 | 11 | 11 | 12 |
| | 電気機械器具 | 9 | 16 | 10 |
| | 輸送用機械器具 | 9 | 10 | 7 |
| | 精密機械器具 | 8 | 9 | 6 |
| | その他 | 4 | 5 | 6 |
| 建設業 | | 4 | 7 | 7 |
| 卸売・小売業 | | 3 | 0 | 1 |
| 金融・保険・不動産 | | 0 | 0 | 0 |
| 運輸・通信業 | | 2 | 0 | 1 |
| 電気・ガス・水道業 | | 6 | 10 | 6 |
| サービス業 | | 26 | 24 | 26 |
| 官公庁 | | 0 | 1 | 3 |
| 教育・学習支援業（学校教育） | | 0 | 0 | 0 |

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

企業からの求人倍率が高く、また製造業への就職割合が多い事、進学は理工系への分野が多いことから、本校の掲げる教育目標において意図している人材を養成しており、教育の成果や効果が上がっている。

観点6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

従来から教育および学習達成度評価として学生自身による「授業改善アンケート」を実施している(資料6-1-④-1)。平成24年度授業アンケート(前期)の「内容の理解」について、準学士課程で5段階評価中3.8、「意欲」について4.0、「考え方、知識、能力、技術の向上」について4.1と総じて高い評価であった(資料6-1-④-1、赤枠部分)。専攻科課程でも「内容の理解」について3.9、「意欲」について4.0、「考え方、知識、能力、技術の向上」について4.0と高い評価であった。「授業改善アンケート」の結果は速やかに集計し、学内に開示している。

「学修の記録」では、本校の「学習・教育目標」に配置した科目ごとに成績を自分で記載し、総括的に学校の意図した教育の成果や効果が上がっているか、5段階での「自己評価」を行うようにしている(資料6-1-④-2)。平成24年度の結果から、準学士課程では5段階評価の総合平均は3.9、専攻科課程を見ると5段階評価の総合平均は両専攻を通じて3.8と総じて高い評価であった。

授業改善アンケート (抜粋)

授業改善アンケート調査 (学生用)

FD ネットワーク “つばさ”

この調査は、授業改善のために、受講したこの授業についての意見を伺うものです。
回答内容は成績評価とはまったく関係がありませんので正直にお答えください。

記入上の注意

- 1 この用紙は、表面 (選択回答欄) と裏面 (自由記述欄) に分かれています。
- 2 質問順に従って、回答してください。
- 3 記入は、H または B の鉛筆を使用してください。
- 4 訂正は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないでください。
- 5 所定欄以外にはマークしたり、記入したりしないでください。
- 6 汚したり、折り曲げたりしないでください。

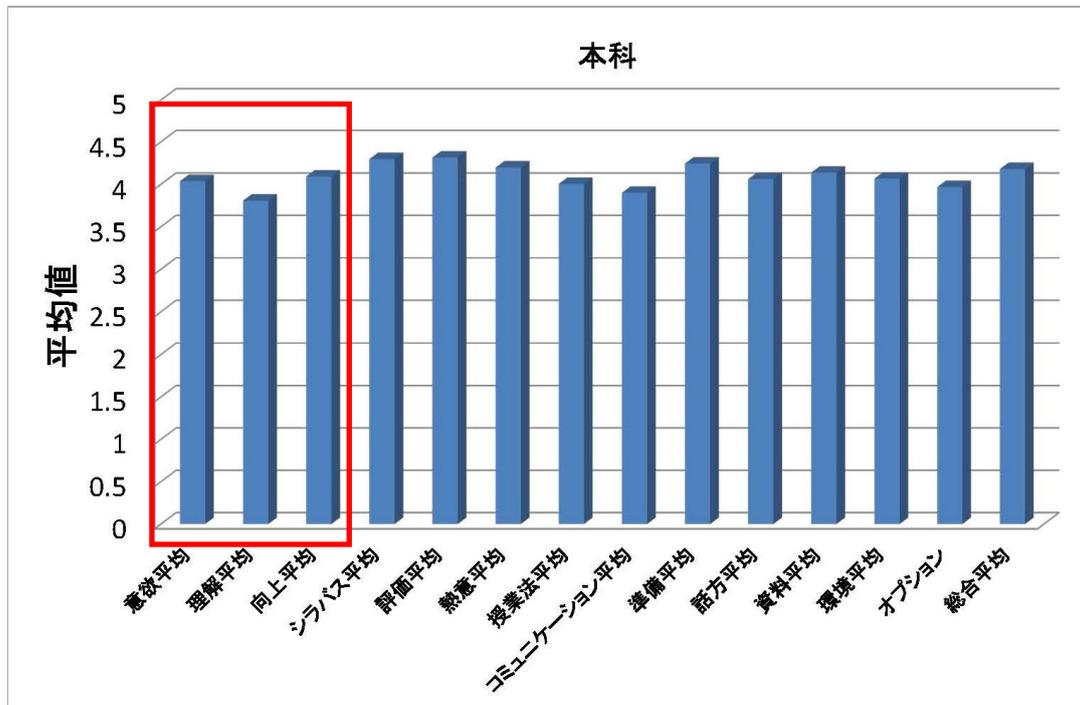
| | | | | | | |
|-------|-----------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 質問 3 | この授業を意欲的に受講しましたか。 | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |
| 質問 4 | 内容を理解できましたか。 | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |
| 質問 5 | 考え方、能力、知識、技術などの向上に得るところがありましたか。 | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |
| 質問 6 | シラバスに授業の目標や授業計画は具体的に示されていますか。 | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |
| 質問 7 | シラバスに成績評価基準と評価方法は具体的に示されていますか。 | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |
| 質問 8 | 教員に熱意は感じられましたか。 | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |
| 質問 9 | 教え方 (教授法) はわかりやすかったですか。 | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |
| 質問 10 | 教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか。 | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |
| 質問 11 | 授業はよく準備されていましたか。 | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |
| 質問 12 | 教員の話し方は聞き取りやすかったですか。 | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |
| 質問 13 | 板書や配布物、提示資料は読みやすかったですか。 | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |
| 質問 14 | 教員は教室内の勉学の環境を良好に保つよう、配慮していましたか。 | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |
| 質問 15 | オプション (授業担当教員から指示があります) | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |
| 質問 16 | この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか。 | 5 <input type="radio"/> | 4 <input type="radio"/> | 3 <input type="radio"/> | 2 <input type="radio"/> | 1 <input type="radio"/> |

※調査項目は裏面にあります。

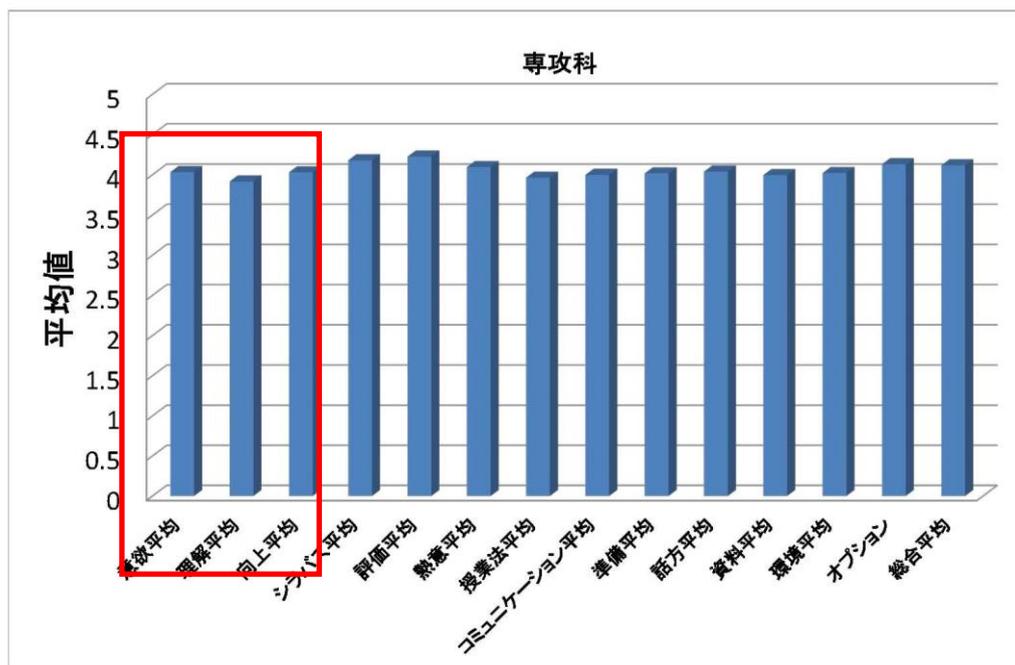
作成：山形大学

授業改善アンケート結果

準学士課程



専攻科課程



(出典：学生課資料)

学修の記録 (準学士課程 4・5 年生用)

機械工学科 4・5 学年 (生産システム工学コース前期) 履修状況と自己評価

自分で
チェック

履修科目の成績 前期末および学年末の成績評価点を記入する。
自己評価欄 “シラバスにある科目の目標を達成できたか” 「自分で評価する。
[5:十分達成 4:おおよそ達成 3:かろうじて達成 2:やや不足 1:不十分]

| プログラムの 学習・教育目標 | 4年次 開講科目 | 単 位 | 前期 成績 | 学 年 成績 | 評 価 点 5 ~1 | 5年次 開講科目 | 単 位 | 前期 成績 | 学 年 成績 | 自 己 評 価 5 ~1 |
|-------------------------------------|-------------|--------|----------|--------------|------------------------|-------------|--------|----------|--------------|-----------------------------|
| (A) 知識を統合し多面的に問題を解決する能力を身に付ける。 | | | | | | | | | | |
| (B) 時代的視野を視野に備え、身に付ける。 | ドイツ語 | 2 | 59 | 78 | 5 | ドイツ語 | 2 | 45 | 60 | 5 |
| | | | | | | 国際政治 | 1 | 92 | 92 | 5 |
| | | | | | | 英語表現Ⅰ | 1 | | | |
| | | | | | | 地球環境科学 | 1 | | | |
| | | | | | | 管と福祉工学 | 1 | 77 | 77 | 4 |
| | | | | | | 茨城福祉機器工学 | 1 | | | |
| (C) 工学、自然科学の基礎学力を基礎・実習による実践力を身に付ける。 | 応用数学 | 3 | 77 | 95 | 4 | 応用数学 | 2 | 71 | 71 | 4 |
| | 応用物理 | 2 | 61 | 70 | 4 | 数理科学 | 1 | | | |
| | 機械工学実験Ⅰ | 1 | 76 | 74 | 4 | エコロジ 概論 | 1 | | | |
| | | | | | | 地理学 | 1 | | 67 | 4 |
| | | | | | | 機械工学実験Ⅱ | 2 | 79 | 79 | 5 |
| (D) 工学の基礎知識と技術を身に付ける。 | 機械設計製図 | 4 | 72 | 78 | 4 | 機械設計製図 | 3 | 76 | 79 | 4 |
| | マイコン制御 | 1 | 79 | 74 | 4 | メカトロニクス | 1 | 92 | 92 | 5 |
| | 対称学Ⅰ | 1 | 71 | 68 | 5 | 制御工学 | 2 | 68 | 78 | 4 |
| | 流体力学 | 2 | 65 | 72 | 4 | 数値解析 | 2 | 72 | 76 | 4 |
| | 熱力学 | 2 | 66 | 73 | 4 | 材料科学 | 1 | 81 | 83 | 5 |
| | 材料科学Ⅱ | 2 | 47 | 57 | 4 | デジタル制御システム | 1 | 76 | 76 | 4 |
| | 発振力学Ⅰ | 1 | | 61 | 3 | 電子デバイス | 1 | | | |
| | 機械学 | 1 | 63 | 63 | 3 | エネルギー変換工学 | 1 | | | |
| | 機械要素設計 | 2 | 62 | 71 | 4 | 生産工学 | 1 | | | |
| | 機械工作法Ⅱ | 1 | 61 | 61 | 3 | | | | | |
| | 情報処理 | 1 | 66 | 66 | 4 | | | | | |
| (E) 一)の達成率を分析し、卒業後に必要な能力を身に付ける。 | | | | | | | | | | |
| (F) 論理的表現力と英語力を身に付ける。 | 英語Ⅰ | 2 | 80 | 71 | 3 | 語学演習 | 1 | 69 | 87 | 3 |
| | | | | | | 工業英語 | 1 | 54 | 69 | 3 |
| (G) 計画性、能動的、主体的な問題解決能力を身に付ける。 | | | | | | 卒業研究 | 11 | | 82 | 5 |
| その他の科目 | 保健・体育 | 2 | 71 | 80 | 4 | 保健・体育 | 1 | 71 | 71 | 4 |
| | 電子回路 | 1 | | | | 機械力学Ⅱ | 1 | 68 | 68 | 3 |
| | 機械工学ゼミ | 2 | | | | 精密加工学 | 1 | | 62 | 4 |
| | | | | | | 熱力学演習 | 1 | 61 | 61 | 4 |
| | | | | | | 水力学演習 | 1 | 64 | 84 | 5 |

(注) 縦掛け部分は必修

3年次での未修得科目と追修結果: 材料力学Ⅰ 材料科学Ⅰ

4年次での未修得科目と追修結果: _____

卒業研究のテーマ: _____

— 第 4 学年 —

| |
|---|
| 今年度の目標 |
| その日の宿題をやりこなさないといけない (自宅での学習時間 目標：1日あたり平均 3 時間 00 分) |
| 活動区 |
| 資格・検定試験：美術、工業美術、各種資格試験など _____ |
| 校外活動：インターンシップ、大学実習、学会発表など <u>なし</u> <u>秋の健工</u> |
| 課外活動：クラブ活動、サークル、ボランティアなど _____ |
| 今年度1年間の欠席状況： 日、 時間 |
| 今年度の反省 |
| 赤点教科は無くなったものの、全体的に点数が悪かった。 理解が深まらなかったから、(授業での学習時間 実績：1日あたり平均 時間 分) |
| 教員コメント |
| 自分の気持ちを出して 意思をしっかりと伝える努力を。 |

— 第 5 学年 —

| |
|--|
| 今年度の目標 |
| 志点を取らないものはあきらめること。勉強を頑張ることによって成績を上げた。 (自宅での学習時間 目標：1日あたり平均 1 時間 30 分) |
| 活動区 |
| 資格・検定試験：美術、工業美術、各種資格試験など _____ |
| 校外活動：インターンシップ、大学実習、学会発表など <u>研究発表 (- 関)</u> |
| 課外活動：クラブ活動、サークル、ボランティアなど _____ |
| 今年度1年間の欠席状況： 日、 時間 |
| 今年度の反省 |
| 目標を達成し、研究も上手にいたったので良かった。 (自宅での学習時間 実績：1日あたり平均 1 時間 00 分) |
| 教員コメント |
| 粘り強い努力が人様に伝わった。仕事でも粘り強く 頑張ることを。(印) |

学修の記録 (専攻科課程 1・2 年用)

機械電気システム工学専攻 1, 2 学年 (生産システム工学コース後期) 履修状況と自己評価

自分で
チェック

履修科目の成績 (成績評価点を記入する。
自己評価: “シラバスにある科目の目標を達成できたか” 自分で評価する。
[1:十分達成 4:おおよそ達成 3:かろうじて達成 2:やや不足 1:不十分]

| プログラムの 学習 - 教育目標 | 1年次 履修科目 | | | | 2年次 履修科目 | | | | |
|---|---------------|------------------|------------------|-------------------------|-------------|------------------|------------------|-------------------------|----|
| | 単 位 | 前 期 成 績 | 後 期 成 績 | 自 己 評 価 1-5 | 単 位 | 前 期 成 績 | 後 期 成 績 | 自 己 評 価 1-5 | |
| 【A】 知識を統合し多面的に問題を解決する能力を身に付ける。 | 製造工学実習 | 2 | | 91 | 4 | 高専インターンシップ | 1-4 | | |
| | インターンシップ | 2 | | | | | | | |
| | 長期インターンシップ | 1-4 | | 91 | 4 | | | | |
| 【B】 地球の資源と経済を 理解する身に付ける。 | 安全工学 | 2 | | 93 | 5 | 経済学 | 2 | 70 | 5 |
| | 技術者倫理 | 2 | | 98 | 4 | 日本語特論 | 2 | 100 | 5 |
| 【C】 数学、自然科学の基 礎学力と実験・実習 による実践力を身に 付ける。 | 応用代数学 | 2 | | 67 | 2 | 応用数学 | 2 | 87 | 4 |
| | 環境化学 | 2 | | 72 | 3 | 物理学特論 | 2 | 90 | 3 |
| | 講義別実務 | 2 | | 83 | 3 | 量子物理 | 2 | 86 | 4 |
| | | | | | | 環境地理学特論 | | 90 | 3 |
| 【D】 工学の基礎学力と特 長を身に付ける。 | 社会学特論 | 2 | | 81 | 3 | | | | |
| 【E】 一つの得意専門分野 をもち、卒業後期に 関する幅広い分野の 実務に付ける。 | 設計工学 | 2 | | | | データ解析 | 2 | 88 | 2 |
| | システム計画学 | 2 | | 92 | 5 | 電気電子工学 | 2 | 75 | 5 |
| | 生物機能材料 | 2 | | | | 応用コンピュータ | 2 | | 92 |
| | 材料科学 | 2 | | 70 | 2 | センサー工学 | 2 | | |
| | 数値計算 | 2 | | 95 | 3 | 視覚工学 | 2 | | 78 |
| | 材料力学特論 | 2 | | | | 材料設計 | 2 | | |
| | 塑性加工学 | 2 | | | | トライボロジー | 2 | | |
| | 応用機械学 | 2 | | | | 制御工学特論 | 2 | | 95 |
| | 成形機械 | 2 | | | | 機械応用工学 | 2 | | |
| | レーザー応用計測 | 2 | | | | 信号処理特論 | 2 | | |
| | 集積回路設計 | 2 | | 77 | 3 | 音響工学 | 2 | | |
| | 伝送システム工学 | 2 | | | | シミュレーション工学 | 2 | | |
| | 計算機システム | 2 | | 75 | 3 | 光電子デバイス | 2 | | 73 |
| | | | | | 宇宙空間ロボット特論 | - | | | |
| 【F】 論理的表現力と英語 力を身に付ける。 | 学術発表 | - | | | | 専攻科研究 (論文) | - | | |
| | 演習別研究 (40分発表) | - | | | | 学会発表 | - | | |
| | 総合実習特論 | 2 | | 80 | 5 | 専攻科研究 (要旨) | - | | |
| | 総合実習特論 | 2 | | 87 | 4 | 専攻科研究 (英文要旨) | - | | |
| 【G】 言語的、論理的、実 践的な問題解決能力 を身に付ける。 | | | | | | 専攻科研究 (研究進行報告) | - | | |

(注) 網掛け部分は必修

1年次での実習科目と通訳結果 _____

2年次での実習科目と通訳結果 _____

専攻科研究のテーマ Andriodアプリの開発 '監視カメラ'

— 第 1 学年 —

| | |
|------------------------------|----------------------------------|
| 今年度の目標 | 研究モダの修得に力をつける |
| | (自宅での学習時間 目標: 1日あたり平均 / 時間 60 分) |
| 活動性 | |
| 資格・検定試験: 英検, 工業英検, 各種資格試験など | 英検2級合格 |
| 校外活動: インターンシップ, 大学実習, 学会発表など | 長期インターンシップ, アシスタントリサーチ員 機械学会 |
| 課外活動: クラブ活動, サークル, ボランティアなど | 花島ボランティア |
| 今年度1年間の欠席状況: | 日、 時間 |
| 今年度の反省 | 研究に力を入れる期間は短かった。義務で修得の学習時間を見守る。 |
| | (自宅での学習時間 実績: 1日あたり平均 / 時間 50 分) |
| 教員コメント | |

— 第 2 学年 —

| | |
|------------------------------|------------------------------------|
| 今年度の目標 | 成果レポートに向けて研究の総仕上げをする |
| | (自宅での学習時間 目標: 1日あたり平均 / 時間 60 分) |
| 活動性 | |
| 資格・検定試験: 英検, 工業英検, 各種資格試験など | |
| 校外活動: インターンシップ, 大学実習, 学会発表など | 長期インターンシップ |
| 課外活動: クラブ活動, サークル, ボランティアなど | 花島ボランティア |
| 今年度1年間の欠席状況: | 日、 時間 |
| 今年度の反省 | 成果レポートは合格点である。研究の総仕上げは随分遅くはなっていない。 |
| | (自宅での学習時間 実績: 1日あたり平均 / 時間 60 分) |
| 教員コメント | |

学修の記録 (準学士課程 4・5年用) 集計結果 (抜粋)

| 物質工学科 4, 5 学年 (生産システム工学コース前期) 履修状況と自己評価 | | | | | | | | | | | |
|--|--|-------------|--------|----------|----------|-----------------|-------------|--------|----------|----------|-----------------|
| 自分で チェック | 履修科目の成績：前期末および学年末の成績評価点を記入する。 自己評価欄：“シラバスにある科目の目標を達成できたか”自分で評価する。 [5:十分達成 4:おおよそ達成 3:かろうじて達成 2:やや不足 1:不十分] | | | | | | | | | | |
| | プログラムの 学習・教育目標 | 4年次 開講科目 | 単 位 | 前期 成績 | 学年 成績 | 自己 評価 1~5 | 5年次 開講科目 | 単 位 | 前期 成績 | 学年 成績 | 自己 評価 1~5 |
| (A) 知識を統合し多 面的に問題を解決する構 | | | | | | | | | | | |
| (B) 地球的視野と技術者 倫理を身に付ける。 | ドイツ語 | 2 | | | | | ドイツ語 | 2 | | | |
| | | | | | | | 国際政治 | 1 | | | |
| | | | | | | | 英語表現法 | 1 | | | |
| | | | | | | | 地球環境科学 | 1 | | | |
| | | | | | | | 音と福祉工学 | 1 | | | |
| | | | | | | 3.6 | 医療福祉機器工学 | 1 | | | 3.9 |
| (C) 数学、自然科学の基 礎学力と実験・実習 による実践力を身に 付ける。 | 応用数学 | 4 | | | | | 数理科学 | 1 | | | |
| | 応用物理 | 2 | | | | | エコロジー概論 | 1 | | | |
| | 物質化学実験 | 2 | | | | | 地理学 | 1 | | | |
| | 材料工学実験 | 1 | | | | | | | | | |
| | 生物工学実験 | 1 | | | | | | | | | |
| | 物質工学基礎研究 | 1 | | | | 4.4 | | | | | 3.8 |
| (D) 工学の基礎学力と情 報技術を身に付ける。 | 電気工学概論 | 1 | | | | | バイオテクノロジー | 2 | | | |
| | 化学工学 | 2 | | | | | 無機材料化学 | 2 | | | |
| | 計測制御 | 2 | | | | | 機械工学概論 | 1 | | | |
| | 計算機実習 | 1 | | | | | 環境とエネルギー | 1 | | | |
| | 分子生物学 | 2 | | | | | デジタル制御システム | 1 | | | |
| | 材料化学 | 2 | | | | | 電子デバイス | 1 | | | |
| | 無機化学 | 2 | | | | | エネルギー変換工学 | 1 | | | |
| | 有機化学 | 2 | | | | | 生産工学 | 1 | | | |
| | 物理化学 | 2 | | | | | 情報処理演習 | 1 | | | |
| | 生物化学 | 2 | | | | 3.8 | | | | | 3.7 |
| (E) 一つの得意専門 分野をもち、生産技術 に関する幅広い対応力 を身に付ける。 | | | | | | | | | | | |
| (F) 論理的表現力と英語 力を身に付ける。 | 英語 I | 2 | | | | | 語学演習 | 1 | | | |
| | | | | | | | 工業英語 | 1 | | | |
| | | | | | | 4.0 | | | | | 3.6 |
| (G) 計画的、継続 的、 客観的な問題解決能力 | | | | | | | 卒業研究 | 12 | | | 3.9 |

学修の記録（専攻科課程 1・2 年用）集計結果（抜粋）
機械電気システム工学専攻

機械電気システム工学専攻 1, 2 学年（生産システム工学コース後期）履修状況と自己評価

| | |
|-------------|--|
| 自分で チェック | 履修科目の成績：成績評価点を記入する。 自己評価：“シラバスにある科目の目標を達成できたか”自分で評価する。 [5:十分達成 4:おおそ達成 3:かろうじて達成 2:やや不足 1:不十分] |
|-------------|--|

| プログラムの 学習・教育目標 | 1年次 開講科目 | 単 位 | 前期 成績 | 後期 成績 | 自己 評価 1~5 | 2年次 開講科目 | 単 位 | 前期 成績 | 後期 成績 | 自己 評価 1~5 |
|---|-------------|--------|----------|----------|-----------------|----------------|--------|----------|----------|-----------------|
| (A) 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身に付ける。 | 創造工学演習 | 2 | | | | 長期インターンシップ | 3~4 | | | |
| | インターンシップ | 2 | | | | | | | | |
| | 長期インターンシップ | 3~4 | | | 4.3 | | | | | |
| (B) 地球的視野と技術者倫理を身に付ける。 | 安全工学 | 2 | | | | 経済学 | 2 | | | |
| | 技術者倫理 | 2 | | | 4.2 | 日本学特論 | 2 | | | 3.4 |
| (C) 数学、自然科学の基礎学力と実験・実習による実践力を身に付ける。 | 応用代数 | 2 | | | | 応用解析 | 2 | | | |
| | 環境化学 | 2 | | | | 物理学特論 | 2 | | | |
| | 専攻科実験 | 2 | | | | 量子物理 | 2 | | | |
| | | | | | 3.6 | 環境地理学特論 | | | | 3.7 |
| (D) 工学の基礎学力と情報技術を身に付ける。 | 総合技術論 | 2 | | | | | | | | 3.7 |
| (E) 一つの得意専門分野をもち、生産技術に関する幅広い対応力を身に付ける。 | 設計工学 | 2 | | | | データ解析 | 2 | | | |
| | システム計画学 | 2 | | | | 実践電気電子工学 | 2 | | | |
| | 生物機能材料 | 2 | | | | 応用コンピュータグラフィクス | 2 | | | |
| | 材料科学 | 2 | | | | センサー工学 | 2 | | | |
| | 数値計算 | 2 | | | | 経営工学 | 2 | | | |
| | 材料力学特論 | 2 | | | | 材料設計学 | 2 | | | |
| | 塑性加工学 | 2 | | | | トライボロジー | 2 | | | |
| | 応用機構学 | 2 | | | | 制御工学特論 | 2 | | | |
| | 流体機械 | 2 | | | | 電磁気応用工学 | 2 | | | |
| | レーザー応用計測 | 2 | | | | 信号処理特論 | 2 | | | |
| | 集積回路設計 | 2 | | | | 音響工学 | 2 | | | |
| | 伝送システム工学 | 2 | | | | シミュレーション工学 | 2 | | | |
| | 計算機システム | 2 | | | | 光電子デバイス | 2 | | | |
| | | | | | | 学修成果レポート試験 | — | | | |
| | | | | 3.7 | 材料設計学 | | | | | 3.9 |
| (F) 論理的表現力と英語力を身に付ける。 | 学会発表 | — | | | | 専攻科研究（論文） | — | | | |
| | 専攻科研究（中間発表） | — | | | | 学会発表 | — | | | |
| | 総合実践英語Ⅰ | 2 | | | | 専攻科研究（発表） | — | | | |
| | 総合実践英語Ⅱ | 2 | | | | 専攻科研究（英文要旨） | — | | | |
| | | | | 3.8 | | | | | | 4.0 |
| (G) 計画的、継続的、客観的な問題解決能力を身に付ける。 | | | | | 専攻科研究（研究遂行能力） | — | | | | 4.0 |

(注) 網掛け部分は必修得

物質工学専攻 (抜粋)

物質工学専攻 1, 2 学年 (生産システム工学コース後期) 履修状況と自己評価

| 自分で チェック | 履修科目の成績：成績評価点を記入する。 自己評価：“シラバスにある科目の目標を達成できたか”自分で評価する。 [5:十分達成 4:おおそ達成 3:かろうじて達成 2:やや不足 1:不十分] | | | | | | | | | |
|---|--|--------|----------|----------|-----------------|----------------|--------|----------|----------|-----------------|
| | | | | | | | | | | |
| プログラムの 学習・教育目標 | 1年次 開講科目 | 単 位 | 前期 成績 | 後期 成績 | 自己 評価 1~5 | 2年次 開講科目 | 単 位 | 前期 成績 | 後期 成績 | 自己 評価 1~5 |
| (A) 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身に付ける。 | 創造実習II | 2 | | | | 長期インターンシップ | 3~4 | | | |
| | インターンシップ | 2 | | | | | | | | |
| | 長期インターンシップ | 3~4 | | | 3.5 | | | | | |
| (B) 地球的視野と技術者倫理を身に付ける。 | 安全工学 | 2 | | | | 経済学 | 2 | | | |
| | 技術者倫理 | 2 | | | 3.8 | 日本学特論 | 2 | | | 4.3 |
| (C) 数学、自然科学の基礎学力と実験・実習による実践力を身に付ける。 | 応用代数 | 2 | | | | 応用解析 | 2 | | | |
| | 環境化学 | 2 | | | | 物理学特論 | 2 | | | |
| | 専攻科実験 | 2 | | | | 量子物理 | 2 | | | |
| | | | | | 3.5 | 環境地理学特論 | | | | |
| (D) 工学の基礎学力と情報技術を身に付ける。 | 総合技術論 | 2 | | | | 応用代数 | 2 | | | 4.5 |
| | | | | | 4.0 | | | | | |
| (E) 一つの得意専門分野をもち、生産技術に関する幅広い対応力を身に付ける。 | 設計工学 | 2 | | | | データ解析 | 2 | | | |
| | システム計画学 | 2 | | | | 実践電気電子工学 | 2 | | | |
| | 生物機能材料 | 2 | | | | 応用コンピュータグラフィクス | 2 | | | |
| | 材料科学 | 2 | | | | センサー工学 | 2 | | | |
| | 数値計算 | 2 | | | | 経営工学 | 2 | | | |
| | 反応速度論 | 2 | | | | 有機光化学 | 2 | | | |
| | 構造有機化学 | 2 | | | | 応用電気化学 | 2 | | | |
| | 生物資源利用化学 | 2 | | | | 高分子材料化学 | 2 | | | |
| | 工業分析化学 | 2 | | | | 繊維工学 | 2 | | | |
| | 固体構造化学 | 2 | | | | 学修成果レポート試験 | — | | | |
| | 高分子合成化学 | 2 | | | | 構造有機化学 | 2 | | | |
| | ゲノム工学 | 2 | | | | 材料科学 | | | | |
| | 高分子材料化学 | 2 | | | | 反応速度論 | 2 | | | |
| | 有機光化学 | 2 | | | | ゲノム工学 | 2 | | | |
| | | | | 3.2 | | | | | | 3.4 |
| (F) 論理的表現力と英語力を身に付ける。 | 学会発表 | — | | | | 専攻科研究 (論文) | — | | | |
| | 専攻科研究 (中間発表) | — | | | | 学会発表 | — | | | |
| | 総合実践英語I | 2 | | | | 専攻科研究 (発表) | — | | | |
| | 総合実践英語II | 2 | | | 3.5 | 専攻科研究 (英文要旨) | — | | | 4.0 |
| (G) 計画的、継続的、客観的な問題解決能力を身に付ける。 | | | | | | 専攻科研究 (研究遂行能力) | — | | | |
| | | | | | | | | | | |

(注) 網掛け部分は必修得

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

全学生による科目毎の「授業改善アンケート」、準学士課程4・5年生及び専攻科課程学生が自ら記載する「学修の記録」を通じて達成状況を確認した結果、本校の意図する教育の成果や効果は上がっている。

観点6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先等の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や、卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

本校は5年毎にJABEEプログラムに関するアンケートを実施しており、平成21年12月下旬から平成22年2月中旬にかけて準学士課程卒業生と専攻科課程修了生、就職先企業277社（県内59社、県外218社）を対象に調査を行った。100社（県内31社、県外69社）から回答を得ている。調査項目「鶴岡高専の卒業生の評価」のうち優れている点のなかで「技術的基礎知識」(20%)、「誠実さ」(14%)、「協調性」(13%)が上位を占めていた（資料6-1-⑤-1、2頁目赤枠部分）。これは5年前の調査と傾向的に大きな変化はなかった。専攻科修了生についても傾向は同じであった（資料6-1-⑤-1 3頁目赤枠部分）。本校の学習・教育目標は、企業が求める人材要件と一致し適切であることが確認された（資料6-1-⑤-1 4頁目赤枠部分）。また5年前の調査で「卒業生の不足している点」として挙げられた「プレゼンテーション能力」(8%)や「総合的問題解決能力」(7%)は改善傾向にある（資料6-1-⑤-1 2頁目青枠部分）。

卒業（修了）生からのアンケートでは、学習・教育目標の必要性がかなり高いことが明らかとなった（資料6-1-⑤-1 5頁目赤線部分）。

JABEE プログラムに関するアンケート

H22. 4. 26

企業アンケート結果

JABEEプログラム責任者

1. はじめに

平成21年12月下旬から平成22年2月中旬にかけて、277社（県内59社、県外218社）に対して本校のJABEE教育プログラムに関連したアンケート調査を実施した。

アンケートの目的は、本校のJABEE教育プログラムの学習・教育目標が社会の要望や要請に合致したものになっているかを再確認することである。企業の選定は、最近5年間で3回以上本校に求人案内を申し込んだ企業を対象とした。アンケートは記名で実施した。

2. アンケート項目

- 1) 鶴岡高専に専攻科が設置されたことを知っているか
- 2) 学生の採用実績
- 3) 鶴岡高専の学生の評価について（・優れている点 ・不足している能力）
- 4) TOEIC 試験について（・採用において成績を考慮するか ・必要なレベルは何点か）
- 5) JABEE プログラムの認知度について
- 6) 鶴岡高専の学習・教育目標に関して（・最も重要な項目は何か ・重要度の低い項目は何か）

3. アンケート結果

アンケート回収結果： 100社（回収率36%）（内訳：県内31社(53%)、県外69社(32%)）

今回は、県外企業の意見が前回より強く反映されている。

参考：5年前のアンケート回収結果 166社（回収率42%）（県内85社（46%）、県外81社（39%））

分析結果：

- 1) 専攻科の認知度は97%で5年前の認知度66%から大幅に上昇している。
- 2) 今回のアンケート対象企業の50%は、本科卒業生3～10名の採用実績があるが、専攻科修了生採用実績0の割合が78%と高く専攻科生に対する評価は困難であった。
- 3) 本校の本科卒業生の優れた点については、5年前の調査と比較すると「技術的基礎知識」が増えた点が目立つが、傾向的には大きな変化はない。企業は、「誠実さ」、「協調性」、「行動力」などの精神面において本校の学生の優位性を評価している。
- 4) 本校の本科卒業生の不足している点については、「英語力」の弱さは相変わらず第1位である。その他「コミュニケーション能力」や「プレゼンテーション能力」、「企画力」、「総合的問題解決力」など自ら発意して問題解決する力の不足が指摘されている。これら項目は、本校の学習・教育目標A)、F)、G)で教育する能力である。
5年前の調査と比較すると「コミュニケーション能力」不足の割合が増え「創造力」不足が減少した。その他は同様の傾向である。これらの課題は、特に専攻科生については次第に解決されているものと期待している。
- 5) JABEEについて知っている企業は36%程度であり、5年前の調査結果40%と比較してほとんど変わらないことが窺われる。企業の認識度はまだ低いと言える。
- 6) 採用に際してTOEICスコアを考慮する企業は10%と少ないが、必要なTOEICスコアを500点とする回答が最も多い。5年前は400点が最も多かった。英語要求レベルは上昇していることが窺える。
- 7) 学習・教育目標A)が相対的に最も重要という結果になったが、すべての目標に対して大きな差は見られずほぼ均等に分散した。これは、すべての学習・教育目標が重要であると評価されていることを示す。

企業アンケート結果（続き 1）

アンケート分析詳細データ

1. 鶴岡高専に専攻科が設置されたことを知っているか 回答総数 全体 100 社（県内：31 県外：69）

| | 知っている | 知らない |
|----|-------|------|
| 全体 | 97% | 3% |
| 県内 | 100% | 0% |
| 県外 | 96% | 4% |

- * 専攻科の認知度は97%程度である。
5年前の認知度66%から大幅に上昇している。

2. 鶴岡高専からのこれまでの採用実績 回答総数 全体 100 社（県内：31 県外：69）

| | 0名 | 1名 | 2名 | 3~5名 | 6~10名 | 11名以上 |
|------|-----|-----|-----|------|-------|-------|
| 専攻科生 | 78% | 20% | 1% | 1% | 0% | 0% |
| 本科生 | 2% | 18% | 13% | 25% | 25% | 17% |

- * 今回のアンケート対象企業は本校本科卒業生の採用実績が3~10名の割合が50%であったが、専攻科生採用実績0名の割合が78%と高く専攻科生に対する評価はできなかった。専攻科修了生の数がまだ少ないことが要因である。（修了生総数平成21年度現在112名）

3. 鶴岡高専の本科卒業生の評価

優れている点（上位8位まで） 回答総数（複数回答可） 全体 319件

| 技術的基礎知識 | 誠実さ | 協調性 | 専門知識 | 一般常識 | 行動力 | コミュニケーション力 | PC他情報技術能力 |
|---------|-----|-----|------|------|-----|------------|-----------|
| 20% | 14% | 13% | 10% | 10% | 7% | 6% | 3% |

- * 5年前の調査では「技術的基礎知識」と「誠実さ」17%で並んで1位であった。傾向的には大きな変化はない。
- * 企業は、誠実さ、協調性、行動力などの精神面において本校の学生の優位性を評価している。

不足している点（上位7位まで） 回答総数（複数回答可） 全体 151件

| 英語力 | コミュニケーション能力 | 指導力 | プレゼンテーション能力 | 管理力 | 企画力 | 総合的問題解決力 |
|-----|-------------|-----|-------------|-----|-----|----------|
| 16% | 13% | 9% | 8% | 8% | 8% | 7% |

- * 5年前の調査と比較すると「英語力」不足は相変わらず第1位である。また、「コミュニケーション能力」不足の割合が増え、「プレゼンテーション能力」や「創造力」不足が減少した。その他は同様の傾向である。「英語力」不足に関しては、専攻科修了生はこの課題は次第に解決されつつあると考える。
- * 「コミュニケーション能力」や「プレゼンテーション能力」、「企画力」、「総合的問題解決力」など自ら発意して問題解決する力の不足が指摘されている。これらの点は、本校の学習・教育目標 A)、 F)、 G) で教育している能力であり、次第に改善されてゆくものとする。

企業アンケート結果(続き 2)

4. 鶴岡高専の専攻科修生の評価 (回答数が少ないため参考)

優れている点 (上位 8 位まで) 回答総数 (複数回答可) 全体 72 件

| 技術的 基礎知識 | 専門知識 | 誠実さ | 協調性 | 行動力 | 総合的 問題解決力 | 計画的 問題解決力 | PC他情報 技術能力 |
|-------------|------|-----|-----|-----|--------------|--------------|---------------|
| 29% | 15% | 13% | 8% | 6% | 4% | 4% | 4% |

不足している点 (上位 7 位まで) 回答総数 (複数回答可) 全体 36 件

| 企画力 | 管理力 | 指導力 | 英語力 | 開発力 | 総合的 問題解決力 | コミュニケーシ ョン能力 |
|-----|-----|-----|-----|-----|--------------|-----------------|
| 14% | 11% | 8% | 8% | 8% | 8% | 8% |

* サンプル数が少ないため、統計的な信頼性は低いと思われる。また、対象学生は、入社早々の新人が多いことも考慮する必要がある。

5. TOEIC 試験について

採用試験で TOEIC 成績を考慮するか 回答総数 92 社

| 考慮している | 近々考慮する | 当分考慮しない |
|--------|--------|---------|
| 10% | 19% | 71% |

* 採用に際して TOEIC 成績を考慮しているあるいは数年内に考慮する企業は 30%程度である。5年前の調査では、40%程度であった。傾向としては、大きくは変わっていないと考える。

必要とされる TOEIC 得点レベル 回答総数 61 社

| 300 点 | 400 点 | 500 点 | 600 点以上 |
|-------|-------|-------|---------|
| 5% | 34% | 46% | 15% |

* 今回は、500 点とする回答が最も多かった。5年前は 400 点とする企業が 47%と最も多く 600 点以上と回答した会社は 10%に過ぎなかった。この点から、企業の英語要求レベルは上昇していることが窺える。

6. JABEE 認定教育プログラムの認知度について 回答総数 89 社

| よく知って いる | ある程度知って いる | あまり知らない | 全く知らない |
|-------------|---------------|---------|--------|
| 2% | 34% | 43% | 21% |

JABEE 認定プログラムを継続維持することに対して 回答総数 86 社

| 評価する | 概ね評価する | あまり評価しない | 評価しない |
|------|--------|----------|-------|
| 26% | 58% | 15% | 1% |

* JABEE について知っている企業は 36%程度であり、5年前の調査結果 40%と比較するとほとんど変わらないことが窺われる。企業の認知度はまだ低いと言える。

* JABEE 認定プログラムを維持継続することに対しては評価するとの回答が多い。

企業アンケート結果(続き 3)

7. 鶴岡高専の JABEE プログラムの学習・教育目標について

A)~G) の学習・教育目標で重要なものはどれか 回答総数(複数回答可) 289 件

| A) 構想力 | D) 基礎工学と情報技術 | G) 計画的・継続的問題解決力 | E) 1つの専門と幅広い対応力 | B) 地球的視野と技術者倫理 | F) 論理的表現力と英語力 | C) 理論的基礎学力と実験力 |
|--------|--------------|-----------------|-----------------|----------------|---------------|----------------|
| 21% | 16% | 16% | 15% | 11% | 11% | 10% |

- * 学習・教育目標 A) が相対的に最も重要という結果になったが、すべての目標に対して大きな差は見られずほぼ均等に分散した。このことは、すべての目標が重要であると評価されていると考えることができる。

(参考: 5年前の調査 回答総数 159、A) 46%、D) 16%、E) 15%、G) 8%の順であった。)

A)~G) の中であまり重要でない目標は何か 回答総数(複数回答可) 55 件

| F) 論理的表現力と英語力 | B) 地球的視野と技術者倫理 | E) 1つの専門と幅広い対応力 | G) 計画的・継続的問題解決力 | C) 理論的基礎学力と実験力 | D) 基礎工学と情報技術 | A) 構想力 |
|---------------|----------------|-----------------|-----------------|----------------|--------------|--------|
| 36% | 34% | 13% | 9% | 4% | 2% | 2% |

- * B)、F) が相対的に重要度が低いと評価されている。しかし、回答数の絶対数は圧倒的に少なくあくまで A) ~G) の中の相対的評価である。5年前の調査においても、今回と同様の結果であった。

(参考: 5年前の調査 回答総数 130、B) 38%、F) 32%、E) 11%、C) 8%)

- * 5年前の調査においても、本校の学習・教育目標 A) ~G) は 99% の企業から概ね適切であるとの評価を受けている。今回のアンケート結果においても、その評価は変わっていないと考えられる。

8. アンケート回答企業の業種分類 (上位 8 位まで) 回答総数 100 社

| サービス業 | 機械 | 化学 | 電気・電子機器 | 食品 | 精密 | 建設 | その他(製造業) |
|-------|-----|----|---------|----|----|----|----------|
| 17% | 13% | 9% | 8% | 8% | 8% | 8% | 7% |

- * 業種に関しては、情報・ソフトウェア分野を含むサービス業が最も多く、機械、化学の順になっている。電気・電子機器、食品、精密、建設、その他(製造業)がほぼ等しい割合である。業種は多岐にわたっている。

5年前のアンケートでは電気・電子機器が 16% で第 1 位、サービス業は 11% で第 3 位であったが今回は、この 2 つが逆転している点が大きな違いである。業種が多岐にわたっている傾向は同様である。

卒業生アンケート結果

H22. 6. 11

卒業生アンケート結果

JABEEプログラム責任者

1. はじめに

平成21年12月下旬から平成22年2月中旬にかけて本校のJABEEプログラム修了生(約80名: H15年3月~20年3月)や本科卒業生(約700名: H17年3月~20年3月)に対して、本校で掲げている「学習・教育目標」に関するアンケート調査を実施した。アンケートの目的は、学習・教育目標(A)~(G)の内容が卒業・修了後の職場などでどの程度必要とされているのかということ(必要性)、および在学中にそれぞれがどのくらい達成したのかあるいは達成すべきなのかということ(達成度)について調査することである。

2. アンケート項目

アンケート項目は、学習教育目標(A)~(G)に対応したものをそれぞれ設定した(別紙参照)。また、職場におけるJABEEプログラムの認知度に関する項目についても調査した。

3. アンケート結果

196名の卒業生・修了生からの回答を得た(回収率25%)。アンケートの回答者は、各学科や各専攻にバランス良く配置されており、就職組と進学組の割合はおよそ3:1であった。また、就職先の業種も多岐にわたっており平均的な意見の集約となっている。以下に個々の学習教育目標に対する結果について述べる。

A) 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける能力について

本目標の必要性については「大いに必要」と「ある程度必要」をあわせた「必要」が90%近くに達している。これに対し、獲得した能力に対する満足度は「十分」と「ある程度満足」を合わせて45%という結果になっている。

B) 地球的視野と技術者倫理について

本目標の地球的視野や技術者倫理の必要性については68%とかなり高い値である。特に、技術者倫理の必要性は82%と高いことが伺われる。他方、本校で獲得した能力に対する満足度は、40%程度にとどまっている。

C) 数学、自然科学の基礎学力と実験・実習による実践力について

本目標の必要性については67%とかなり高い値である。また、満足度も59%とかなり高い。

D) 工学の基礎学力と情報技術について

本目標の必要性は80%と高い値を示している。満足度は基礎知識や応用力は59%とかなり高いものの、情報技術関連では満足度は45%と低くなっている。

E) 一つの得意分野を持ち、生産技術に関する幅広い対応能力について

本目標の必要性は70%とかなり高い値である。他方、満足度は41%とやや低い。

F) 論理的表現力と英語力について

本目標の文章の表現力に関しては84%が必要性を感じているものの、「満足」という回答が27%と特に低い。また英語力の必要性は47%と本校の卒業生の職場ではやや低い結果となった。英語力の満足度も17%と極めて低い。

G) 計画的、継続的、客観的な問題解決能力について

本目標の必要性は90%と極めて高い。本校で獲得した能力の満足度は45%程度である。

・ JABEE認定プログラムの修了生であることのメリットについて

何らかのメリットがある卒業生は7%と極めて低く、職場での認知度は低いことが言える。

以上、本校の学習・教育目標(A)~(G)は、卒業生からその必要性を高く評価されており適切であるとの社会的評価を得たものとする。しかし、達成度に関しては、満足度50%以下が多く必要性の評価に比較して相対的に低い。これは、現状、彼らが期待されている能力水準は卒業時の達成レベルより高いことを示すと考えられ、ある意味では当然の結果である。しかし、他方では、もっと教育力を高めて欲しいという要請でもあり、我々はこれらに答えて行く必要がある。

卒業生アンケート結果 (続き 1)

鶴岡高専の学習・教育目標に関するアンケート

1 卒業または修了した学科や専攻名

- (1)機械工学科(24%),(2)電気工学科(24%),(3)制御情報工学科(20%),(4)物質工学科(17%),
(5)機械電気システム工学専攻(9%),(6)物質工学専攻(6%)

| | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|

2 卒業・修了時の進路はどちらでしたか。

- (1)就職(74%),(2)進学(25%),(3)その他(1%)

| | |
|-----|-----|
| (1) | (2) |
|-----|-----|

3 一覧から業種を選択してください。

- (1)食料品(1.5%), (2)繊維工業(0.5%), (3)紙・パルプ(0%), (4)化学工業(12%), (5)医薬品(2%), (6)石油(1.5%),
(7)ゴム製品(0%), (8)ガラス・セラミックス(0.5%), (9)鉄鋼(0%), (10)非鉄金属(0.5%), (11)金属製品(1.5%),
(12)機械(6%), (13)電気・電子機器(13%), (14)輸送用機器(6%), (15)精密機器(5%), (16)その他(製造業)(10%),
(17)水産・農林業(0%), (18)鉱業(0%), (19)建設業(4%), (20)電気・ガス・水道業(3%), (21)倉庫・運輸業(1%),
(22)通信業(6%), (23)卸売・小売業(1%), (24)銀行業(0%), (25)証券・商品先物取引業(0%), (26)保険業(0%),
(27)その他金融業(0%), (28)サービス業(6%), (29)その他(非製造業)(4%), (30)学生(15%)

【学習教育目標A～Gに掲げた内容の職場での必要性(要求性)と高専での達成度(満足度)】

- A. 知識を統合し多面的に問題を解決する構想力を身につける能力について
(卒業研究や専攻科研究によっていろいろな知識を駆使して問題を解決する能力を身につける)

4 職場では上記の能力が必要とされますか。

- (1)大いに必要(54%),(2)ある程度必要(33%),(3)どちらとも言えない(4%),(4)あまり必要ない(7%),(5)全く不要(2%)

| | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (1) | (2) | (3) | (4) | (5) |
|-----|-----|-----|-----|-----|

5 高専で修得した上記の能力は業務遂行の上でどの程度満足していますか。

- (1)十分満足(7%),(2)ある程度満足(38%),(3)どちらとも言えない(32%),(4)少し不足(18%),(5)全く不足(5%)

| | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (1) | (2) | (3) | (4) | (5) |
|-----|-----|-----|-----|-----|

- B. 地球的視野と技術者倫理について
(人文、社会、語学系の科目や環境系教科および技術者倫理の科目によって国際的視野を持ち、
技術者の社会責任を自覚できる能力)

6 職場では工学技術の持つ地球的社会的影響を理解できる能力が必要とされますか。

- (1)大いに必要(28%),(2)ある程度必要(40%),(3)どちらとも言えない(15%),(4)あまり必要ない(13%),(5)全く不要(4%)

| | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (1) | (2) | (3) | (4) | (5) |
|-----|-----|-----|-----|-----|

7 高専で修得した上記の能力は業務遂行の上でどの程度満足していますか。

- (1)十分満足(7%),(2)ある程度満足(33%),(3)どちらとも言えない(38%),(4)少し不足(13%),(5)全く不足(9%)

| | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (1) | (2) | (3) | (4) | (5) |
|-----|-----|-----|-----|-----|

8 職場では工学技術者としての自覚や倫理的責任を理解できる能力が必要とされますか。

- (1)大いに必要(40%),(2)ある程度必要(42%),(3)どちらとも言えない(13%),(4)あまり必要ない(4%),(5)全く不要(1%)

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| (1) | (2) | (3) | (4) |
|-----|-----|-----|-----|

9 高専で修得した上記の能力は業務遂行の上でどの程度満足していますか。

- (1)十分満足(6%),(2)ある程度満足(38%),(3)どちらとも言えない(38%),(4)少し不足(14%),(5)全く不足(4%)

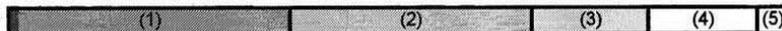
| | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| (1) | (2) | (3) | (4) | (5) |
|-----|-----|-----|-----|-----|

卒業生アンケート結果 (続き 2)

C. 数学、自然科学の基礎学力と実験・実習による実践力について
(数学や物理、化学系などの基礎知識と実験・実習で培った実技能力)

10 職場では数学や物理、化学などの工学の基礎となる知識や応用能力が必要とされますか。

(1)大いに必要(36%),(2)ある程度必要(31%),(3)どちらとも言えない(15%),(4)あまり必要ない(14%),(5)全く不要(4%)



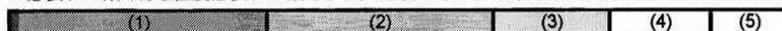
11 高専で修得した上記の能力は業務遂行の上でどの程度満足していますか。

(1)十分満足(12%),(2)ある程度満足(47%),(3)どちらとも言えない(29%),(4)少し不足(9%),(5)全く不足(3%)



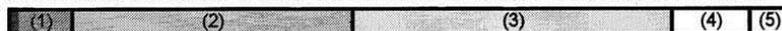
12 職場では実験を通して現象を科学的に分析・理解する実践力が必要とされますか。

(1)大いに必要(33%),(2)ある程度必要(29%),(3)どちらとも言えない(15%),(4)あまり必要ない(13%),(5)全く不要(10%)



13 高専で修得した上記の能力は業務遂行の上でどの程度満足していますか。

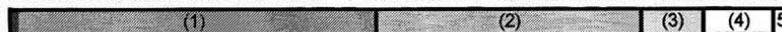
(1)十分満足(8%),(2)ある程度満足(36%),(3)どちらとも言えない(41%),(4)少し不足(10%),(5)全く不足(5%)



D. 工学の基礎学力と情報技術について
(機械力学や設計・工作法、電気回路、電子回路、制御工学、無機・有機化学などの専門基礎科目および情報系科目で学んだ知識)

14 職場では専門の基礎となる知識や応用能力が必要とされますか。

(1)大いに必要(47%),(2)ある程度必要(34%),(3)どちらとも言えない(8%),(4)あまり必要ない(9%),(5)全く不要(2%)



15 高専で修得した上記の能力は業務遂行の上でどの程度満足していますか。

(1)十分満足(12%),(2)ある程度満足(44%),(3)どちらとも言えない(24%),(4)少し不足(16%),(5)全く不足(4%)



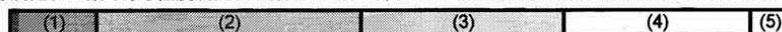
16 職場ではコンピュータの利用技術や関連分野の汎用ソフトウェアを使える能力が必要とされますか。

(1)大いに必要(53%),(2)ある程度必要(31%),(3)どちらとも言えない(9%),(4)あまり必要ない(5%),(5)全く不要(2%)



17 高専で修得した上記の能力は業務遂行の上でどの程度満足していますか。

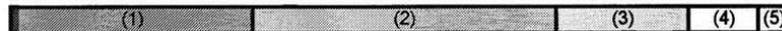
(1)十分満足(11%),(2)ある程度満足(34%),(3)どちらとも言えない(26%),(4)少し不足(24%),(5)全く不足(5%)



E. 一つの得意分野を持ち、生産技術に関する幅広い対応能力について
(各学科や専攻の専門科目で学んだ知識)

18 職場では上記の能力が必要とされますか。

(1)大いに必要(31%),(2)ある程度必要(39%),(3)どちらとも言えない(17%),(4)あまり必要ない(9%),(5)全く不要(4%)



19 高専で修得した上記の能力は業務遂行の上でどの程度満足していますか。

(1)十分満足(6%),(2)ある程度満足(35%),(3)どちらとも言えない(45%),(4)少し不足(8%),(5)全く不足(6%)



卒業生アンケート結果 (続き 3)

F. 論理的表現力と英語力について
(文章の作成能力や説明能力や英語の読解力、スピーチ能力)

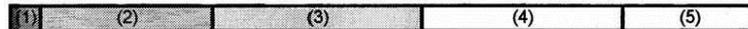
20 職場では文章の作成能力や説明能力が必要とされますか。

(1)大いに必要(51%),(2)ある程度必要(33%),(3)どちらとも言えない(9%),(4)あまり必要ない(7%),(5)全く不要(0%)



21 高専で修得した上記の能力は業務遂行の上でどの程度満足していますか。

(1)十分満足(4%),(2)ある程度満足(23%),(3)どちらとも言えない(28%),(4)少し不足(27%),(5)全く不足(18%)



22 職場では英語の読解力、スピーチ能力が必要とされますか。

(1)大いに必要(22%),(2)ある程度必要(25%),(3)どちらとも言えない(20%),(4)あまり必要ない(23%),(5)全く不要(10%)



23 高専で修得した上記の能力は業務遂行の上でどの程度満足していますか。

(1)十分満足(1%),(2)ある程度満足(16%),(3)どちらとも言えない(37%),(4)少し不足(26%),(5)全く不足(20%)



G. 計画的、継続的、客観的な問題解決能力について
(卒業研究や専攻科研究によって課題を自ら見つけ解決しながら計画的に研究を進めていく能力を身につける)

24 職場では上記の能力が必要とされますか。

(1)大いに必要(59%),(2)ある程度必要(31%),(3)どちらとも言えない(8%),(4)あまり必要ない(1%),(5)全く不要(1%)



25 高専で修得した上記の能力は業務遂行の上でどの程度満足していますか。

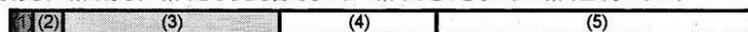
(1)十分満足(10%),(2)ある程度満足(35%),(3)どちらとも言えない(30%),(4)少し不足(20%),(5)全く不足(5%)



【その他】

26 本校がJABEEプログラムの認定校であること、また専攻科修了生はJABEEプログラム修了者であることを有利と感じることはありますか。

(1)十分ある(3%),(2)ある(4%),(3)どちらとも言えない(29%),(4)ほとんどない(21%),(5)全くない(43%)



27 勤務先(あるいは大学)にとって本校がJABEEプログラム認定校であることは考慮されますか。

(1)大いに考慮(2%),(2)ある程度考慮(2%),(3)どちらとも言えない(26%),(4)ほとんど考慮せず(23%),(5)全く考慮せず(47%)



(分析結果とその根拠理由)

本校卒業生、修了生及び進路先関係者から意見を聴取した結果からは、本校での教育は総じて好評であると評価でき、教育の成果や効果が上がっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

準学士課程で、学習・教育目標に科目が対応づけられており、学生が卒業時に身につける学力や資質・能力についての達成状況を把握し、明記された基準に基づいて厳密に評価されている。また、FD委員会による全体を点検し提言するシステムが整備されている点。

専攻科課程でも、学習・教育目標や到達度目標が明確であり、明記された基準に基づいて厳密に評価されている点。

高い単位修得率、学生の研究発表件数が多いこと、製造業への高い就職割合、理工系大学等への進学など教育の成果が挙げられている点。

企業においても卒業（修了）生への評価が高く、学習・教育目標が重要性が高い点。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準 6 の自己評価の概要

準学士課程・専攻科課程のカリキュラムにおけるそれぞれの科目の位置づけにより、科目毎に学習・教育目標との対応を定めており、担当教員による科目毎の成績評価から進級・卒業及び修了判定まで、いずれも明記された評価方法と基準及び規定に基づいて厳密に実施されている。またFD委員会が実施するアンケートにより取り組みが適正に行われていることがわかる。以上により、高等専門学校としてその目的に沿った形で、課程に応じて学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力や養成する人材像について、その達成状況を適切に把握・評価するための組織体制がおかれ適切な取組がなされている。

単位修得率、進級率、卒業（修了）率の状況、資格取得状況、卒業研究及び専攻科研究等の内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

企業からの求人倍率が高く、また製造業への就職割合が多い事、進学は理工系への分野が多いことから、本校の掲げる教育目標において意図している人材を養成しており、教育の成果や効果が上がっている。

全学生による科目毎の「授業改善アンケート」、準学士課程 4・5 年生及び専攻科課程学生が自ら記載する「学修の記録」を通じて達成状況を確認した結果、本校の意図する教育の成果や効果は上がっている。

本校卒業生、修了生及び進路先関係者から意見を聴取した結果からは、本校での教育は総じて好評であると評価でき、教育の成果や効果が上がっている。